



# News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2の7-22 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA 2-7 KANDA NISHIKI-CHO CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP 101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 445号

2011. 11. 30

毎月1回 20日発行

発行責任者

岸田 義典

## 目次

- 国際農業機械化研究会報告会より.....2  
中国国際農業機械展示会 2011 (CIAME)  
株式会社新農林社 代表取締役社長 岸田義典
- 国別輸出入 (2011年1-9月).....6
- 国際イベントニュース.....20

'2011

11

# 中国国際農業機械展示会 2011

国際農業機械化研究会・岸田義典理事長  
(株新農林社社長)

国際農業機械化研究会は(株)新農林社と共催で、第 446 回海外農機事情報告会を、平成 23 年 11 月 21 日 (月) に開催した。講師は国際農業機械化研究会 岸田義典理事長 (株)新農林社社長)。講師は 10 月 25 ~ 30 日まで「中国国際農業機械展示会」を視察して帰国し、展示会の様子を映像とともに報告した。

要旨は以下の通りである。

## 「中国国際農業機械展示会」視察

「中国国際農業機械展示会 2011 (CIAME)」が、中国河南省の鄭州国際コンベンション・展示センターに於いて 2011 年 10 月 27 ~ 29 日に開催された。当展示会は、50 年以上の歴史を持ち、15 万 m<sup>2</sup> 以上の敷地面積に、国内外 1,600 社以上のメーカーが参加している。ここ 7 年間は毎年 10 万人以上の参観者数が記録され、中国国内では最大規模の展示会である。主催は中国農業機械工業協会 (中国の農業機械製造業の団体)、中国農業機械流通協会 (販売店等の団体)、中国農業機械化協会、河南省の農業機械関連団体、人民政府、展示会関係会社等。主な展示製品はトラクタ、コンバイン、作業機、エンジン、発電機、耕耘機や農業備品、農具、収穫機、灌漑用機械、工事用機械等で、中国市場に現在流通している製品の約 70% が展示されている。日本からは、(株)クボタ、ヤンマー(株)、井関農機(株)をはじめとして、(株)ササキコーポレーション、上海世達爾現代農機有限公司 (略称: 上海 STAR)、(株)筑水キャニコムが出展。また海外からは、ジョンディアや韓国企業、フランスの農業機械工業会やイタリアの UNACOMA 等も参加していた。

## 中国市場の動向

中国では、今年 1 ~ 9 月の農機全体の生産量は対前年比 34% 増を示した。トラクタ生産の 6 割が 25 馬力以上で、100 馬力以上が 9% を占める。30 馬力以上の大型トラクタを製造している企業は 30 社以上あり、1 ~ 9 月の生産量は 32 万台で前年比 22% 増だった。最終年度では 25 馬力以上が約 38 万台になると見込んでいる。因みに、日本のトップメーカーである(株)クボタの 2009 年トラクタ生産実績が約

1,000 台であるから、その生産量には圧倒される。

中国では約 1 万社の農業機械メーカーがある。その中で、売上額 500 万元以上が 2,700 社、2,000 万元以上が 1,700 社。その 1,700 社の総売上額が 2010 年で 2,824 億元になる。日本円で換算すると (レート換算率約 13 倍)、優に 3 兆円を超え、日本の農業機械生産額の 5 倍以上となる。今年の 1 ~ 7 月の総売上額が 1,700 社で約 1,900 億元で、1 年間では約 3,000 億元になると見込んでいる。

中国では現在『第 12 次 5 カ年計画』を実施し、2015 年の最終年度の目標を、「総合農業機械化率 5 割以上」と掲げている。世界最大の膨大な人口を長期に養うため、国内の農地の生産性を高めることが求められ、機械化によるタイムリーで正確なオペレーションが必要とされている。そのため、国の補助金として 3,000 億円を投入して、国産機械に限定し農業機械のほぼ 30% の費用を補助している。他、省政府の補助もある。農機市場は今後 10 年で大きな伸びが期待できる。具体的には今後、ゴムクローラ型 200 馬力以下、セミクローラ型の 70 ~ 100 馬力が伸びていくと思われる。

## 中国農業機械化の現状

展示会に出展されていたさとうきびの収穫機を例にとってみる。現在中国では、さとうきびの作付面積が 1,200 万 ha あり、ほとんどは手刈りの状態だ。機械化された時の需要を考えると、いかに莫大になるかということがわかる。また、機械収穫が一番進んでいるとうもろこしの収穫機では、山東省においては約 5 割の機械化が進んでいるが、まだまだ需要は大きい。中国は国土が広いため、農業機械はますます発展していくだろう。